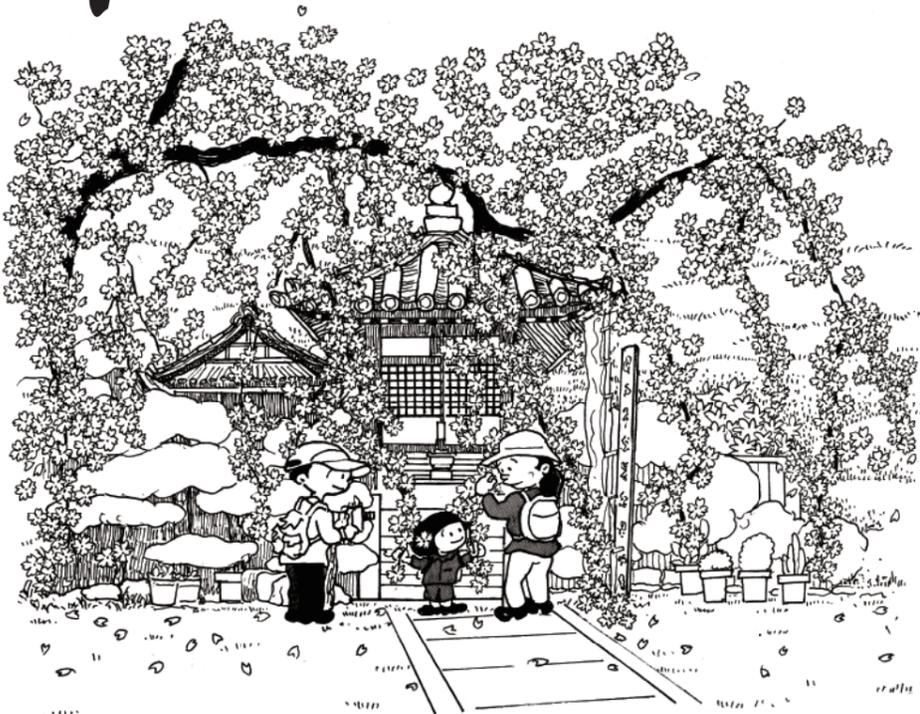


はんなんマップ 悠歩みち

阪南市全域版



企画・制作
イラスト
発行
まちおこし夢テラス
角田光和(阪南市在住)
阪南市教育委員会

阪南の街道

浜(孝子越)街道

泉佐野市鶴原付近を起点として浜づたいに田尻町、泉南市を通り阪南市尾崎、鳥取、貝掛、箱作を抜け、岬町淡輪から孝子峠を越えて和歌山市に通じる道です。

信長街道

泉南市信達で「熊野(紀州)街道」と分かれ男里川を渡り、阪南市下出、黒田を通り鳥取ノ荘駅付近で「浜(孝子越)街道」に合流する道で、織田信長の紀州雑賀攻めの時に整備されたと言われています。

井関越街道

「浜(孝子越)街道」の尾崎を起点として黒田、石田、桑畑を通り、鳥取池(ダム)、元紀泉キャンプ場から井関峠を越えて和歌山の六十谷へ通じる道です。

熊野(紀州)街道

大阪の八軒家(天満橋付近)から四天王寺、住吉大社を通り、府道大阪和泉泉南線に沿って南下し、泉南市信達、阪南市和泉鳥取、山中溪から雄山峠を越えて熊野に至る道です。

阪南の四季

春は桜祭り

熊野(紀州)街道山中宿(JR山中溪駅)一帯は地福寺のしだれ桜(表紙イラスト参照)、山中川の桜並木などで桜一色になり、桜まつりにはいろいろなイベントで賑わいます。井関越街道沿いの鳥取池緑地桜の園も、桜の名所です。

夏は海水浴・盆踊り

せんなん里海公園は箱作から淡輪までの海浜公園で、ハイキング、散策、軽スポーツなどで年中楽しめます。特に夏はびちびちビーチの海水浴で賑わい、多様なイベントがあります。8月中旬になると市内各地で盆踊りが開催されます。このうち「箱作の盆踊り」「貝掛音頭」「尾崎くどき」が阪南市無形民俗文化財に指定されています。

秋はやぐら祭り

阪南市の秋祭りでは、二つの大きな車輪の「地車(やぐら)」が登場します。10月の第1日曜日には市内の全やぐらが市役所前に集結し、パレードを行います。祭礼は体育の日と前日の日曜日に催され、市内各地でやぐらが曳行されます。日曜日の波太神社の宮入りは18台のやぐらが数段の石段を駆け上がる勇壮なもの。体育の日には神社を出発した神輿はえびの浜まで巡行し、そのまま海に入り、「禊(みそぎ)」を行います。

冬は除夜の鐘・初詣・恵比寿

大晦日には市内の寺で除夜の鐘がつかれ、年が明けると同時に神社に初詣をします。中でも波太神社は屋台も並び、大勢の参詣人で賑わいます。1月9、10、11日は、市内の恵比寿神社では、笹飾りを手にする人をたくさん見かけます。

「はんなんマップ悠歩(ゆうほ)みち」は、阪南市内で活動する市民団体や協力者の集まりである「阪南まちづくりネットワーク」の活動から生まれた「まちおこし夢テラス」が企画・制作し、教育委員会が発行したものです。阪南市に長く住みながら、このまちについて「知らないことが多い」「もっとこのまちを知りたい」「周囲の人にも知らせたい」という思いから、散策マップづくりを始めました。その後、阪南市全域から街道や史跡の位置が分かり、まちの特長を表したマップが必要と考え、この「阪南市全域版」を制作しました。各街道のマップと共に阪南市全域版を手に四季を通じて、様々な視点で「歴史と自然のはんなん市」をゆっくり歩いていただきたいと思います。

このマップは文化庁の「文化遺産を生かした観光振興・地域活性化事業」を活用して作成しています。

お問い合わせは・・・阪南市教育委員会 生涯学習推進室
TEL072-471-5678 (内線2342) e-mail:s-gakusyuu@city.hannan.lg.jp

阪南の昔ばなしと伝承

和泉鳥取の鳥居

紀州の殿様の行列が山中宿で休憩したあと、このあたりまで来たときに行列の前をいたちが横切った。「無礼なやつ」と侍が後を追ったが民家に逃げ込んで、見失ってしまった。腹を立てた侍はいたちが逃げ込んだ家に火をつけて燃やしてしまった。村人は、「いくら紀州の殿様の行列といってもひどいことだ。帰りの行列にはびっくりさせてやろう」と、雨山の上に大きな石をのせた。江戸から殿様が帰ってきたとき、雨山の上から石が転がってきた。殿様はびっくりして「この山に天狗がおるぞ」と恐れた。それから殿様はここを通るときは、無事を願って石田の宮(波太神社)を拝むようになった。そのために鳥居は波太神社の方を向いて建っているんだと。

音羽池の蛇

自然田の瑞宝寺が玉田山にあった昔のことです。和尚さんがお経をあげていると、一匹の小さな蛇が膝の上ののってきました。和尚さんは驚いて追い払おうとしても逃げません。和尚さんはこれも仏縁だと、音羽丸と名づけて飼いました。音羽丸は大きくなり、大蛇になりました。村人は寺に大蛇がいることを知り、恐れました。お参りに来る人も少なくなり、檀家の人たちは大蛇を追い出せと言いました。和尚さんは困ってしまい、蛇をさとして近くの池に放しました。その後、村人はこの池を音羽池と言うようになりました。それから時がたち、音羽池には「おと」という主がおり、頭が音羽池に、しっぽは遠く離れたにごり池にあるといわれました。大蛇がしっぽをふると、たちまち池が濁ったので「にごり池」というんだと。

自然居士(じねんこじ)

謡曲「自然居士」の主人公は、阪南市自然田の出身だという伝承があります。自然居士は半僧半俗の仏教者で、仏の徳を説いていました。謡曲では、少女は自然居士に両親の供養の説法を頼みます。供え物の小袖は、人買いにわが身を売って買ったものでした。自然居士は少女を救うために人買いを琵琶湖まで追いかけて、舟に乗り込みます。人買いは「いったん買ったものは返さぬ。舟から降りねば痛い目にあわせるぞ、命をとるぞ」とおどします。自然居士は「返さないなら舟から降りぬ」と動きません。人買いは自然居士をなぶり者にしようとして、舞を舞えば返すとせまります。自然居士は「悪人のたわごと仏縁だ」と謡い、舞い、鼓をならし、舟が岸に近づくとみるや少女を抱えて舟から飛び降り、都に駆けまわります。

お菊伝説

大坂夏の陣(1615年)の時の伝承です。淡輪氏の娘小督と豊臣秀次の間に生まれたのが、お菊です。秀吉の怒りに触れた秀次が切腹し、お菊は波有手(ぼうで 現・阪南市鳥取ノ荘付近)の縁者にかくまわれます。徳川が豊臣を攻めた大坂の陣の頃、お菊は紀州の山口家に嫁ぎます。山口家は大坂方で、お菊の夫の兵内は大坂城に入城しました。紀州を支配する大名浅野氏は徳川方で、紀州和歌山から出陣しました。これを大坂城に知らせるためにお菊は使者にたちます。山を伝い、男装し、樫井川まで来たときには樫井合戦が起こり、密書を失います。お菊は捕らえられ処刑されました。お菊の数奇で短い生涯は手まり歌として伝えられ、法福寺にはお菊の像が安置されています。お菊が髪を切って埋めたとする泉南市の山には「お菊髪結いの松」があります。